

1. 略歴

- 1989年3月 東京外国語大学外国語学部スペイン語学科 卒業
1989年4月 東京外国語大学大学院外国語学研究科修士課程入学（ロマンス系言語専攻）
1991年3月 同 修了
1991年4月 Centro de Estudios Literarios, Instituto de Investigaciones Filológicas de la Universidad Nacional Autónoma de México [メキシコ国立自治大学文献学研究所文学研究センター] 訪問研究生（メキシコ政府交換留学生として、～1992年2月）
1992年4月 東京外国語大学大学院地域文化研究科博士後期課程進学（地域文化専攻）
1995年3月 同 単位取得退学
1996年4月 法政大学経済学部助教授
2002年4月 Centro de Estudios Latinoamericanos Rómulo Gallegos [ロムロ・ガリエーゴス・ラテンアメリカ研究センター、ベネズエラ] 客員研究員（～2003年3月）
2004年4月 東京外国語大学外国語学部助教授
2007年4月 同 准教授
2009年4月 東京外国語大学大学院総合国際学研究院准教授（大学院重点化による）
2012年4月 同 教授
2013年10月 東京大学大学院人文社会系研究科准教授

2. 主な研究活動

a 主要業績

(1) 著書(単著)

- 『ラテンアメリカ主義のレトリック』エディマン発行・新宿書房発売、2007年、310ページ
『映画に学ぶスペイン語—台詞のある風景』東洋書店、2010年、137ページ

(2) 著書(共著)

- 『Para manejar bien スペイン語をマスターしよう』（丹羽光男、佐藤邦彦と共著）大学書林、1994年、90ページ
『Así funciona スペイン語のてほどき』（丹羽光男、佐藤邦彦と共著）大学書林、1996年、74ページ
『劇場を世界に—外国語劇の歴史と挑戦』（谷川道子と共編著）エディマン発行・新宿書房発売、2008年、440ページ

(3) 論文

- 「〈他者〉と時間—カルペンティエールの小説の構造に関する一視点からの考察」『言語・文化研究』（東京外国語大学大学院）8号、1990年、107-113ページ
「母なる膝の安らぎ—カルペンティエールの恋愛(1)」『言語・文化研究』（東京外国語大学大学院）9号、1991年、21-28ページ
「『失われた足跡』における〈象徴表現〉」『ALBA 1991』（東京外国語大学比較文学研究室）1991年、59-69ページ
「アルフォンソ・レイエスのアメリカ論」『ラテンアメリカ研究年報』（日本ラテンアメリカ学会）14号、1994年、117-143ページ
「メキシコのウェルギリウス／ウェルギリウスのメキシコ—アルフォンソ・レイエスの文化論」『イベロアメリカ研究』（上智大学イベロアメリカ研究所）16巻2号、1995年、47-60ページ
「交錯するディスクール／表象する隠喩—アレホ・カルペンティエールと自己成型の問題」『ラテンアメリカ研究年報』（日本ラテンアメリカ学会）16号、1996年、97-125ページ
「街灯、吊り橋、鉄塔—ホセ・マルティ、文化の生産装置」『法政大学多摩論集』16巻、2000年、95-128ページ
「とまどう放蕩息子—消費、モダニズムのモラル、ラテンアメリカ主義」『法政大学多摩論集』17巻1号、2001年、29-52ページ
「クレオール性、クリオーリョ性、ラテンアメリカ主義—カルペンティエールの実践」『法政大学多摩論集』17巻2号、2001年、57-87ページ
「恍惚と呼びかけ—『ミツバチのささやき』におけるコミュニケーションへの意志」『世界文学』（世界文学会）94号、2001年、97-103ページ

「恋愛、植民地、小説—十九世紀イスマノアメリカ恋愛小説」『法政大学比較経済研究所 2001 年度ワーキング
ペーパー 「植民地主義」再検討』、2002 年、43-58 ページ

「光の世紀から小説の世紀へ—恋愛、植民地、小説(2)アレホ・カルペンティエールの試み」『世界文学』(世界文学会)
97 号、2003 年、9-18 ページ

“Torcido y paralelo: Carpentier y Uslar Pietri en la cultura venezolana de los años 40 y 50”, Actual 61
(Universidad de Los Andes, Venezuela, enero-abril 2006), pp. 31-56. [「ねじれと平行—40 年代 50 年代ベネズエ
ラ文化の中でのカルペンティエールとウスラル=ピエトリ」『アクトゥアル』61 号、2006 年 1 月-4 月、ベネズエ
ラ、ロス・アンデス大学]

「記憶の都市メキシコ 地下恐怖」『総合文化研究』(東京外国語大学総合文化研究所) 14-15 合併号、2012 年、17-31
ページ

「記憶の都市メキシコ トラテロルコの三文化にまつわる集合的記憶」『立教大学ラテンアメリカ研究所報』40 号、
2012 年、13-22 ページ

「記憶の都市メキシコ テペヤクの丘」『れにくさ』4 号、2013 年、224-238 ページ

(4) 小論・書評等

「詩人という微妙な存在—キューバ、エベルト・パディーリャ」『詩と思想』(土曜美術社) 1989 年 9 月号、120-127
ページ

「日本における『ラテンアメリカ文学』の受容」『NHK ラジオ スペイン語講座』1991 年 6 月号、80-85 ページ
(解説) カルペンティエール『失われた足跡』牛島信明訳、集英社文庫、1994 年、391-396 ページ

(書評) ホセ・ドノソ『隣りの庭』野谷文昭他訳、現代企画室、『週刊読書人』1996 年 12 月 13 日

(解説) 「レオポルド・ルゴーン『奇妙な力』」『ユリイカ』1997 年 4 月臨時増刊号「20 世紀を読む」、152-153 ペ
ージ

(事典項目) 木田元他編『コンサイス 20 世紀思想事典』第 2 版、三省堂、1997 年(「クレオール」「ラテンアメリカ
主義」「ポプリスモ」の項目を執筆)

「ルチャ・リブレが自由な闘いだなんて誰が言ったのだ?」『中央評論』(中央大学) 1998 年 12 月号、60-66 ページ
「ラテンアメリカ・イメージの問題」、清水透編『南から見た世界 05 ラテンアメリカ』大月書店、1999 年、35-38
ページ

「訳者の周辺 ホセ・マルティについて」『イスパニア図書』(京都セルバンテス研究会編、行路社発行) 2 号、1999
年、114-115 ページ

「近代派詩人と文学的独立」『週刊朝日百科 世界の文学 37』(朝日新聞社)、2000 年 4 月、205 ページ

「ガルシア=マルケスって洋服屋さん?」『法政通信』(法政大学通信教育部) 357 号、2002 年 1 月、2-7 ページ

「常に新生するクリオージョ音楽をめざして」『月刊ラティナーナ』(株式会社ラティナーナ) 2002 年 9 月号、26-29 ペ
ージ

(書評) 杉浦勉・鈴木慎一郎・東琢磨編著『シンコペーション—ラティナーノ/カリビアン文化実践』エディマン発
行・新宿書房、『週刊読書人』2003 年 6 月 13 日

「言語の脱領土化をめぐる」『現代思想』(青土社) 2003 年 11 月号、108-115 ページ

「風景が語るロード・ムーヴィー」『ENGINE』(新潮社) 2004 年 11 月号、35 ページ

(書評) 谷川道子『ドイツ現代演劇の構図』論叢社、『総合文化研究』(東京外国語大学総合文化研究所) 9 号、2005
年、144-152 ページ

「研究手帳 悔恨の二〇〇四年」『現代思想』(青土社) 2005 年 2 月号、238 ページ

(シンポジウム記録) 「多言語文学への挑戦—変わりゆくスペイン語文学の領域」(若島正、管啓次郎、竹村文彦、稲
本健二、柳原孝敦、松本健二との共著) 『HISPANICA』(日本イスマニヤ学会) 50 号、2006 年、1-10 ページ

(書評) シコ・ブアルキ『ブダペスト』武田千香訳、白水社、『総合文化研究』(東京外国語大学総合文化研究所) 10
号、2006 年、165-169 ページ

(書評) 八木久美子『アラブ・イスラム世界における他者像の変遷』現代図書、『総合文化研究』(東京外国語大学総
合文化研究所) 11 号、2007 年、143-145 ページ

(辞典の一部項目執筆分担) 高垣敏博監修『西和中辞典』第 2 版、小学館、2007 年、2178 ページ

(書評) カール・クラウス『黒魔術による世界の没落』山口裕之・河野英二訳、現代思潮社、2008 年、『総合文化研
究』(東京外国語大学総合文化研究所) 12 号、2008 年、178-181 ページ

「丘に挟まれた溪谷での、さして緊迫してもいない一日—盟友の死を描写するフィデル・カストロ」『現代思想』(青
土社) 2008 年 5 月臨時増刊号、162-171 ページ

- 「ガルシラソ・デ・ラ・ベガとその詩について」『ナチョ・ドウアトの世界』新国立劇場運営財団、2008年、22-23ページ
- (自著紹介)『ラテンアメリカ主義のレトリック』『ラテンアメリカ・カリブ研究』(つくばラテンアメリカ・カリブ研究会)15号、2008年、69-70ページ
- 「著者の周辺」『ラテンアメリカ主義のレトリック』『イスパニア図書』(京都セルバンテス研究会編、行路社発行)11号、2008年、194-195ページ
- (映画DVD解説)「挑戦」『ビクトル・エリセDVD-BOX』リーフレット、紀伊國屋書店、2008年、19ページ(イントロダクション、ストーリー、解説、スタッフのすべての項を執筆)
- (映画DVD解説)「ミツパチのささやき」『ビクトル・エリセDVD-BOX』リーフレット、紀伊國屋書店、2008年、19ページ(イントロダクション、ストーリー、解説、スタッフのすべての項を執筆)
- (映画DVD解説)「エル・スール」『ビクトル・エリセDVD-BOX』リーフレット、紀伊國屋書店、2008年、19ページ(イントロダクション、ストーリー、解説、スタッフのすべての項を執筆)
- (インタビュー)“Es necesario vivir y palpar la realidad latinoamericana para hacer juicios de valor”, Gregory Zambrano, El horizonte de las palabras: la literatura hispanoamericana en perspectiva japonesa (Conversaciones con académicos y traductores), Instituto Cervantes de Tokio, Tokio, pp. 40-46. [「ラテンアメリカの現実を生き、触れてこそ価値判断ができる」、グレゴリー・サンブラーノ著『言葉の地平線—日本から見たスペイン語圏アメリカの文学(学者・翻訳者との対話)』セルバンテス文化センター東京、東京]
- 「愉悅の小説案内1」『百年の孤独』書き出しから引き込まれる小説『NHKラジオ まいにちスペイン語』2009年4月号、98-99ページ
- 「愉悅の小説案内2」『精霊たちの家』女性たちの語り継ぐ物語『NHKラジオ まいにちスペイン語』2009年5月号、96-97ページ
- 「愉悅の小説案内3」『マリーア』読むなら恋愛小説だ『NHKラジオ まいにちスペイン語』2009年6月号、96-97ページ
- 「愉悅の小説案内4」『ペドロ・パラモ』地獄を垣間見てみる『NHKラジオ まいにちスペイン語』2009年7月号、96-97ページ
- 「愉悅の小説案内5」『マンハッタンのお赤ずきんちゃん』不思議な出来事を信じてみる『NHKラジオ まいにちスペイン語』2009年8月号、96-97ページ
- 「愉悅の小説案内6」『伝奇集』インテリを気取って読む『NHKラジオ まいにちスペイン語』2009年9月号、96-97ページ
- 「愉悅の小説案内7」『エル・スール』映画と比較しながら読んでみる『NHKラジオ まいにちスペイン語』2009年10月号、96-97ページ
- 「愉悅の小説案内8」『通話』短編集だけで長編のように読む『NHKラジオ まいにちスペイン語』2009年11月号、122-123ページ
- 「愉悅の小説案内9」『フリアとシナリオライター』自伝と小説の違いを味わう『NHKラジオ まいにちスペイン語』2009年12月号、100-101ページ
- 「愉悅の小説案内10」『ナインス・ゲート』書物を愛しすぎる人々『NHKラジオ まいにちスペイン語』2010年1月号、100-101ページ。
- 「愉悅の小説案内11」『石蹴り遊び』音楽を聴きながら読む『NHKラジオ まいにちスペイン語』2010年2月号、100-101ページ
- 「愉悅の小説案内12」『失われた足跡』比喻で世界の変化を感じる『NHKラジオ まいにちスペイン語』2010年3月号、86-87ページ
- (訳書紹介)「訳者のとまどい」ロベルト・ボラーニョ『野生の探偵たち』柳原孝敦・松本健二訳、白水社、2010年『日本イスパニヤ学会会報』17号、2010年、20-21ページ
- 「マルケスはメキシコ映画の凋落と台頭を目撃者だった」『Coyote』(スイッチ・パブリッシング)2010年11月号、88ページ
- (書評)木村榮一『ラテンアメリカ十大小説』岩波新書、2011年、『日本ラテンアメリカ学会会報』106号、2011年11月、8ページ
- (対談)「キューバ、カストロ以後」(伊高浩昭と)『週刊読書人』2011年5月27日
- 「新世紀文学ナビ」スペイン語圏3 カルロス・バルマセーダ『毎日新聞』2012年1月12日

- (書評) 安藤哲行『現代ラテンアメリカ文学併走』松籟社、2011年、『図書新聞』2012年2月4日
- (書評) カルロス・フェンテス『澄みわたる大地』寺尾隆吉訳、現代企画室、2012年、『週刊読書人』2012年4月20日
- (講演ダイジェスト) 「ノーベル賞作家バルガス=リョサの教訓」『HISPANIA 財団法人日本スペイン協会・会報』No.90、2012、19-20 ページ (下記99?の抄録)
- 「概観 海外文学二〇一一 ラテンアメリカ文学」、日本文藝家協会編『文藝年鑑 2012』新潮社、2012年6月、106-108 ページ。
- 「新世紀文学ナビ スペイン語圏 20 セサル・アイラ」『毎日新聞』2012年7月2日
- (訳書紹介) カルロス・バルマセーダ著『ブエノスアイレス食堂』、柳原孝敦訳、白水社、2011年 (pp.227) 『日本イスパニヤ学会会報』19号、2012年9月11日、21-22 ページ
- (座談会) 「十二人の優しい翻訳家たち」『早稲田文学』5号特集「翻訳という未来」、2012年9月15日、206-238 ページ (対談者: 青山南、岩本正恵、泉京鹿、貝澤哉、辛島デイヴィッド、きむふな、武田千香、堤康徳、都甲幸治、松永美穂、芳川泰久)
- 「24 黄金世紀の文学——そのアンダルシアとの接点」立石博高、塩見千加子編著『エリア・スタディーズ 110 アンダルシアを知るための53章』明石書店、2012、141-144 ページ。
- 「25 アンダルシアの詩人たち——詩人の宝庫」同上、147-150 ページ。
- 「26 ガルシア・ロルカとスペイン内戦——「プロのアンダルシア人」の悲劇」同上、151-154 ページ。
- 「27 闘牛——光と影のスペクタクル」同上、155-158 ページ。
- 「コラム5 外国人文学者から見たアンダルシア」同上、145-146 ページ。
- (書評) フアン・マルセー『ロリータ・クラブでラヴソング』稲本健二訳、現代企画室、2012年、『図書新聞』2012年11月24日
- 「海外文学・文化2012回顧 ラテンアメリカ」『図書新聞』2012年12月22日
- (講演録) 「見えるものと見えないもの——ロベルト・ボラーニョのメキシコ」*REHK: Revista de Estudios Hispánicos de Kioto* 【別冊2】講演録2010~2011年、京都イスパニア学研究会、2012、11-33 ページ。
- “El traductor en la encrucijada”, *La Nación*, Buenos Aires, viernes, 8 de febrero de 2013, ADN Cultura, pág. 21.
(Edición web: <http://www.lanacion.com.ar/1552469-el-traductor-en-la-encrucijada>)
- (書評) 「新奇な正統派」マシャード・ジ・アシス『プラス・クーバスの死後の回想』武田千香訳、光文社古典新訳文庫、2012年、『総合文化研究』(東京外国語大学総合文化研究所) 第16号、2012年、88-91 ページ。
- 「恋愛小説を読む」(ホルヘ・イサークス『マリーア』、1867、の翻訳、および解説のページ) 『NHK テレビテキスト テレビでスペイン語』、2013年4月号、104-107 ページ。
- 「恋愛小説を読む」『NHK テレビテキスト テレビでスペイン語』2013年5月号、104-107 ページ。
- 「恋愛小説を読む」『NHK テレビテキスト テレビでスペイン語』2013年6月号、100-103 ページ。
- 「恋愛小説を読む」『NHK テレビテキスト テレビでスペイン語』2013年7月号、98-101 ページ。
- (対談) 「村上春樹の想像力」『NHK ラジオテキスト 英語で読む村上春樹: 世界のなかの日本文学』2013年7月号、112-135 ページ。(対談相手: 鈴木和成)
- 「概観 海外文学二〇一二 ラテンアメリカ文学」、日本文藝家協会編『文藝年鑑 2013』新潮社、2013年6月、104-106 ページ。
- 「恋愛小説を読む」『NHK テレビテキスト テレビでスペイン語』2013年8月号、98-101 ページ。
- 「恋愛小説を読む」『NHK テレビテキスト テレビでスペイン語』2013年9月号、98-101 ページ
- 「恋愛小説を読む」『NHK テレビテキスト テレビでスペイン語』2013年10月号、84-87 ページ。
- (書評) ロベルト・ボラーニョ『2666』野谷文昭、内田兆史、久野量一訳、白水社、2012年『日本イスパニヤ学会会報』第20号、2013年9月、6-7 ページ。
- 「恋愛小説を読む」『NHK テレビテキスト テレビでスペイン語』2013年11月号、84-87 ページ。
- (5) 翻訳
- (共訳書) 『ホセ・マルティ選集①——交響する文学』1998年、日本経済評論社、454 ページ (第3章「アメリカの子供たちに——『黄金時代』」、131-263 ページ、花方寿行と共訳)
- アレホ・カルペンティエール『春の祭典』国書刊行会、2001年、557 ページ
- (監訳) フィデル・カストロ『少年フィデル』トランスワールドジャパン、2007年、285 ページ
- (監訳) フィデル・カストロ『チェ・ゲバラの記憶』トランスワールドジャパン、2008年、286 ページ
- アルフォンソ・レイェス『アナワクの眺め (1519)』ヌエボレオン州立大学、モンテレイ、メキシコ、2008年、37

ページ（二言語版の日本語訳部分を担当）

（共訳書）ロベルト・ボラーニョ『野生の探偵たち』上・下、白水社、2010年、449+422ページ（松本健二との共訳。上巻193ページ以降、下巻336ページまでを担当したうえ、全体を監修）

カルロス・バルマセーダ『ブエノスアイレス食堂』白水社、2011年、227ページ

河瀬直美、ピクトル・エリセ対談「3.11からの未来」『SWITCH』2011年11月号、114-117ページ（エリセ発言部分の翻訳）

エルネスト・チェ・ゲバラ『チェ・ゲバラ革命日記』原書房、2012年、467+viiiページ

セサル・アイラ『わたしの物語』松籟社、校了・2012年7月中旬刊行予定

(6) 研究発表・講演等

（学会発表）「メキシコにウエルギリウスを見た—アルフォンソ・レイェスの文化論」日本ラテンアメリカ学会第14回大会、愛知県立大学、1994年6月11日

（学会発表）「ラテンアメリカ主義のレトリック—ロド、ダリオ、バスコンセロス」日本ラテンアメリカ学会第15回大会、東京大学、1995年6月11日

（学会発表）「街灯、吊り橋、鉄塔—ホセ・マルティ、文化の生産装置」日本ラテンアメリカ学会第17回大会、中央大学、1997年6月8日

（研究報告）「ロドの労働」ワークショップ〈歴史の中のテンペスト〉、東京都立大学、1998年10月25日

（研究報告）「ピクトル・エリセとペドロ・アルモドーバル」世界文学学会例会、青学会館アイビーホール、2001年7月26日

（研究報告）「恋愛、植民地、小説—19世紀イスマノアメリカ恋愛小説」法政大学比較経済研究所プロジェクト研究会〈植民地主義の再検討〉、2002年1月22日

（研究報告）「恋愛、植民地、小説—20世紀ラテンアメリカ小説における『恋愛』の変容」多言語文化研究会、早稲田大学、2002年2月1日

（学会発表）「地上の楽園に楽鳴り渡る—カルペンティエールとベネズエラ文化 1945-1959」日本イスマノ学会第49回大会、立命館大学、2003年10月25日

（学会発表）「論争から主張へ—メキシコの1940年代」日本ラテンアメリカ学会第25回大会、同志社大学、2004年6月5日（柳原をコーディネーターとするパネル〈文学的表象とラテンアメリカ社会〉の第4報告）

（研究報告）「飛び交う青い猿—内戦とスペイン反ファシスト知識人同盟の活動」世界文学学会例会、青学会館アイビーホール、2004年7月29日

（研究報告）“Sueños de una generación” [ある世代の夢]、特別研究会 “Narrativa venezolana del siglo XX” [20世紀ベネズエラ小説] 国際交流基金・東京スペイン語文学研究会共催、東京大学駒場キャンパス、2004年11月20日

（講演）「ルイス・ブニエール、メキシコにスペインを見出す」函館スペイン倶楽部、2005年5月15日

（講演）「環大西洋知識人ネットワークの形成—スペイン内戦とメキシコ、その他の国々」立教大学ラテンアメリカ研究所講演会〈現代のラテンアメリカ〉、2005年12月10日

（シンポジウム）「多言語文学への挑戦—変わりゆくスペイン語文学の領域」日本イスマノ学会第52回大会、2006年10月21日、同志社大学（ゲスト：若島正、管啓次郎、コメンテーター：竹村文彦、稲本健二、柳原孝敦、コーディネーター：松本健二）

（講演）「カルペンティエールの世界はキューバなのかヨーロッパなのか」国際交流基金主催異文化理解講座、ジャパンファウンデーション国際会議場（東京）、2007年1月22日

（基調報告）“Vallejo en Europa” [ヨーロッパのバジェホ] 在日ペルー大使館、スペイン国立セルバンテス文化センター東京共催セミナー-Vallejo: 70 años después: Homenaje a César Vallejo en el 70 aniversario de su fallecimiento [バジェホ70年後—没後70年記念、セサル・バジェホへのオマージュ]、セルバンテス文化センター東京、2008年4月14日

（研究報告）「近ごろのパチュエコども風ではなく……チカーノの表現の言説分析に向けて」、国際シンポジウム〈トランスナショナル／トランスカルチュラルな比較地域研究—多言語・多文化社会のもとでの新たな大学教育に向けて〉、東京外国語大学、2008年2月14日

（講演）「文学を通して見るキューバ革命」セミナー・シリーズ〈キューバ学校〉第2期第3回講演、2009年9月26日、代官山ヒルサイドアネックス

（講演）「ノーベル賞作家バルガス＝リョサの世界」、スペイン語検定文部科学大臣賞・スペイン大使賞記念講演、財団法人スペイン協会（東京）、2011年3月29日

- (講演)「記憶の都市メキシコ」立教大学ラテンアメリカ研究所講演会<現代のラテンアメリカ>、2011年11月26日
- (講演)「見えるものと見えないもの—ロベルト・ボラーニョのメキシコ」京都イスパニヤ学研究会講演会、2011年12月3日
- (講演)「ロベルト・ボラーニョと『野生の探偵たち』」神奈川大学外国語学部スペイン語学科「チリの夕べ」2012年11月23日
- (研究報告)“Revisión del latinoamericanismo” 日本学術振興会助成平成24年度国際研究集会「グローバル化時代の世界文学と日本文学——新たなるカノンを求めて——」第2セッション「地域とヴィジョン イスパノアメリカ文学へのアプローチ」東京大学山上会館、2013年3月3日
- (シンポジウム パネル)「ラテンアメリカ研究の射程」日本ラテンアメリカ学会第34回大会(於:獨協大学)2013年6月2日(モデレーター:佐藤勘治、他のパネリスト:砂野幸稔、園田節子、中野由美子、コメンテーター:鈴木茂、工藤多香子)

3. 主な社会活動

(1) 非常勤講師

明海大学経済学部(1993~1994年度)、
東京工科大学工学部(1993~1995年度)、
成蹊大学文学部(1994~1996年度)、
専修大学経済学部(1995年度)、
明治大学政治経済学部(1995~1997年度)、
神田外語大学スペイン語学科(1997~2001年度)、
早稲田大学第二文学部(1997~2001年度)、
東京外国語大学外国語学部(2003年度)、
法政大学経済学部(2004~2005年度)、
亜細亜大学国際関係学部(2008年度)、
法政大学経済学部(2009~2010年度)、
東京大学教養学部(2011年度)、
東京大学文学部(2012年度夏学期)、
法政大学経済学部(2012年度)

(2) 学会

日本イスパニヤ学会理事・学会誌編集委員(2006年4月~2010年3月)
日本ラテンアメリカ学会理事(年報編集担当)(2012年6月~現在)